

東京建具協同組合 創立90周年記念式典

組合員、関係者が集い、90周年を祝う 後継者育成と安定的経営で次世代につなぐ



組合員、関係者 162名が参加

東京建具協同組合（岡村宣勝理事長）は11月8日、東京都港区の明治記念館「末広の間」で創立90周年記念式典を開催。また、記念祝賀会は同所「曙の間」において催された。式典及び祝賀会の参加者は組合員、指導団体関係者、取引先関係者を合わせ、総勢162名。

記念式典は池田ヤソシ副理事長の開式の辞で開始。物故者への黙祷の後、主催者を代表して岡村理事長が挨拶。岡村理事長は組合の沿革を踏まえ、先人や関係者への感謝と共に今後の組合運営の姿について語った。



挨拶する岡村理事長

「令和に元号が改まった今年、東京建具協同組合は創立90周年を迎えることができた。私達の組合は昭和4年6月24日、東京府内300の同業者が集まり、麹町公会堂にて創立総会を開催したことが始まりと言われている。当時、ニューヨーク株式市場の大暴落から世界恐慌が始まり、日本でも関東大震災からの復興需要が頭打ちとなり、長引く不況の中、力の弱い個人事業主が仲間を作り、小さな声を大きくする必要があった。それから90年、太平洋戦争、戦後復興、高度経済成長を経て、多くの人達に支えられて今日の組合がある。私達が創立100周年、更にその先を目指していくためには人材を確保し、多様な建築様式に対応できる技術を修得し、生産力を維持し

ていかなければならない。後継者を育て、人材を確保し、適切な減価償却と設備投資を可能にし、安定的かつ持続的な経営を実現する必要がある。組合員の減少は組合にとって脅威だが、それを補うものは組合員の意識。仕事の効率化や時代に即した製品開発を目指すことで新たな領域への挑戦につながる。少数精鋭の組合となった今、頼れる組合になるためにも、組合各種事業を、熱意を持って進めていく」

昭和4年の組合創立から今日に至るまでの90年間の歩みを振り返り、組合が辿ってきた歴史を改めて発表。感謝状・表彰状授与は組合活動に功労のあった組合員に対し、東京都中小企業団体中央会会長感謝状、東京都職業能力開発協会会長感謝状、東京都技能士会連合会会長感謝状、東京建具協同組合理事長感謝状、東京建具協同組合理事長表彰状が各々の受賞者に手渡された。記念講演は「木に活かされる大工と建具職」と題し、宮大工の田子和則氏を講師に招いて実施。田子氏は数奇屋建築や社寺建築に携わってきた経験から「大工の仕事が着物ならば、建具の仕事は帯である」と、強い相関